

**令和元年度**

**令和元年度  
自己評価報告書**

**令和2年4月19日**

**鹿児島第一医療リハビリ専門学校**

**評価委員会**

## I. 実施方法

学校評価の一環として、自己評価を次により実施し、「自己評価報告書」として取り纏めた。

- (1) 全教職員を対象とした自己点検及び自主点検
- (2) 在校生を対象とした学生アンケート
- (3) 各学科及び事務職により検討会
- (4) 教職員会議での審議

## II. 自己評価の概要

### 1 自己点検

- (1) 次の事項について、学科等ごと全教職院を対象に評価を行った。

- |        |       |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| ①教育理念等 | ②学校運営 | ③教育活動 | ④教育内容 | ⑤学生募集 |
| ⑥財 務   | ⑦法令遵守 | ⑧社会貢献 |       |       |

- (2) 評価の結果

関係指定規則に基づく学校運営上、特に大きな問題ないものの、施設・設備及び教育用機器については改善（老朽化、欠品・不備等）が必要なことを確認した。

### 2 学生アンケート

- (1) 次の事項について、在校生を対象に評価を行った。

- |          |          |                |
|----------|----------|----------------|
| ①教育内容・方法 | ②学生指導・支援 | ③学生自身の授業への取り組み |
| ④福利・厚生   | ⑤教育基盤    | ⑥就職支援①教育理念等    |

- (2) 評価の結果

殆どの評価項目について9割以上が肯定的意見となっているが、次の項目について、否定的意見が1割を超えていることを確認した。

- |                |              |
|----------------|--------------|
| ① サークル活動への取り組み | ② 学校と保護者との連携 |
| ③ 図書室の利便性      | ④ 施設・設備の整備   |

### 3 自主点検

- (1) 厚労省の指定規則に基づき、次の事項について学科ごと評価を行った。

- |            |       |        |        |
|------------|-------|--------|--------|
| ①教育科目      | ②専任教員 | ③施設・備品 | ④届出・報告 |
| ⑤履修認定・成績評価 | ⑥授 業  | ⑦その他   |        |

- (2) 評価の結果

全学科とも、それぞれ該当する指定基準を満たしていることを確認した。

### 4 教職員による審議

全教職員参加の下、自己点検結果及び学生アンケート結果を踏まえ、学校及び学科の運営、並びに学生教育・支援等における現状の問題点・課題及び対策などについて審議した。

## III. 自己評価結果

### 1 教育理念等

- (1) 教育理念

「保健・医療・福祉に関する専門的な知識及び技能の修得とともに、医療従事者としての豊かな人格、識見の涵養に努め、医療の普及及び向上に寄与することのできる有為な人材を育成する。」を教育理念として、学校運営及び学生教育を当たっている。

## (2) 教育に係わる3つの方針（ポリシー）

アドミッションポリシー（求める学生像及び入学者選抜の方針）及びディプロマポリシー（卒業・進級などの基準）を策定している。

なお、カリキュラムポリシーとして、学生が主体的に修学に臨むためのカリキュラムツリーの策定中である。

## 2 学校運営

### (1) 意思決定・実行のプロセス

学校運営の重要事項等については、学科長等会議及び必要により教職員会議にて審議・決定している。日々の業務運営、学生教育等については、教務委員会等の各種委員会、学科等において検討し実行されている。

### (2) 事業計画

次のとおり事業計画を策定、全教職院の認識を統一した上で確実にこれを執行している。

#### ア 方針

学生本位の校務運営を主眼として、教育の質的向上、募集広報の強化、学生支援の充実を図り、もって有為な人材の育成、定員充足率の向上を期す。この際、学校運営基盤の充実及び業務の効率化に留意する。

#### イ 重視事項

(ア) 本校学生として相応しい入学者の確保、特に社会人の確保

(イ) 退学者及び留年者の低減

(ウ) 国家試験合格率の維持・向上

(エ) 学生の希望に添った就職率の維持

### (3) 運営組織

ア 校長以下、教学部長、事務職員、各学科の教員は各種法令・規則等に定められた要員が配置され、その所掌業務・責任が明確になっている。

イ 各学科等の組織に加え、学科等を横断する機能別組織として各委員会を設け、有効に機能している。

### (4) 運営基盤

ア 学校運営に必要な各種規程の整備

(ア) 学校法人として必要な規程類は学園規程集として整備されている。

(イ) 学則、履修規程を定め、学生便覧に記載、これを全学生に配布している。

なお、本年度は、理学療法士及び作業療法士養成施設指定規則の改正などに伴い、学則及び履修規程の改正を行い、鹿児島県知事に申請、認可受け後、令和2年4月1日より施行する。

(ウ) その他の学校規程類

学校の規程類として、学生管理、組織運営、募集、服務・人事、健康管理・安全管理及び管財に関する規程、並びに内規、会則及び各種マニュアル（危機管理マニュアル等）を整備している。

なお、本年度は、現状を踏まえ、一部の学校規程類について見直、改正を行うとともに、新たに「倫理審査委員会規程」及び「事務職員の学科分担について」の規程を制定した。

イ 修学・学生生活の基盤整備

(ア) 施設・設備及び教育用機器類の更新等

学生の修学や学生生活に必要な不可欠なものは整備されているものの、一部、老朽化又は陳腐化等により修繕又は更新が必要なもの、カリキュラム改正に伴い新規に整備が必要な

ものがあり、本年度は、次のとおり整備している。

a 施設・設備

10箇所計11台のエアコンを更新するとともに、学生が使用できる電子レンジ及び湯沸ポットを各階に設置

b 教育用機器類

主要なものとして、電気刺激治療器、電動式ギャッチベット、体圧測定装置、モジュール型車いすなど指定機器類を新規に整備するとともに、プロジェクター等の更新を実施した。

(イ) 校内W i f i 環境の整備

e-ラーニングに必要なW i f i 環境を各教室に整備した。

### 3 学生支援

#### (1) 支援態勢

ア 担任制の下、各所掌に応じた支援態勢によりきめ細かい学生支援を行っている。

イ 学生から相談等があった場合は、学科及び所掌事務職との情報共有を図り、速やかに対応することとしている。

#### (2) 就職支援

ア 就職担当事務職と担任が連携を取り、求人情報の提供などの支援を行っている。

イ 就職説明会

例年どおり、本年度も理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科による合同就職説明会を開催するとともに、新たに柔道整復学科及びはり・きゅう学科合同の就職説明会を開催し、学生と求人側のマッチング等を図っている。

ウ 求人開拓・就職後のフォロー

定期的に教員が実習施設や既卒者の就職先などを訪問し、求人開拓を行うとともに、既卒者の就職後のフォローを行っている。

#### (3) 学生生活

各学科とも担任制をとり、各担任が相談窓口となるとともに、専任教員全員で学生の各種相談に対応できる体制を整えている。また、学生から相談のみならず、成績・生活面等に関する個人面談を行い、学生の心情（身上）把握に努めるとともに、必要に応じて保護者と連絡をとり、学校と家庭の連携を図っている。

各学科の詳細については「3.教育活動」及び「4.教育成果」で述べている。

#### (4) 経済的な支援

学費納入や奨学金等の利用などに関し、学校挙げて学生の支援を行い、経済的な理由による退学者の低減を図っている。

ア 学費納入

(ア) 経済的な事情等により学費納入が懸念される学生については、各種相談に応ずるとともに、保護者とも連絡を取りながら早期から対応している。

(イ) 延納・分納

やむを得ない事情により、納期まで学費の納入が困難な学生に対しては、申請により延納・分納を許可するとともに、奨学金等の各種教育資金支援制度の利用について支援を行っている。

イ 高等教育修学支援制度

令和2年4月から開始される高等教育修学支援制度について、学校として次の措置をとり、対象となる学生が制度を確実に利用できるようしている。

(7) 計画的に学生及び保護者に対する説明会を実施し、制度の概要、必要な手続きなどを周知している。

(i) 制度に該当すると思われる学生に対しては、在学採用申込の手続きを支援し、確実に申込を行わせている。

#### ウ 教育訓練給付金

(7) 柔道整復学科が専門実践教育訓練給付金の指定講座に、理学療法学科、作業療法学科及びはり・きゅう学科が一般教育訓練給付金の指定講座に指定されている。

(i) 令和2年度入学希望者に対し、制度の概要説明及び必要な手続き支援を行っている。

#### エ その他の修学支援制度

日本学生支援機構の貸与型奨学金のほか、地方自治体や社会福祉協議会、民間企業、その他の団体による奨学金等について、適宜の情報提供及び申込手続きの支援を行っている。

#### オ 学校独自の授業料減免制度

募集区分に応じた入学料免除のほか、学園内に兄弟が在籍している学生や社会人入学の学生を対象とした授業料等の減免制度を設けている。

### (5) スクールバス

昨年度までの1路線（鹿屋路線）を都城を含む県内6路線に拡大し、利用者が27名から87名に増加した。これにより、学生の通学上の利便性を高めるとともに、経済的負担を軽減することができた。

### (6) 学生寮

寮生以外の学生の低額での短期宿泊が可能とし、試験勉強や部外実習時などでの学生の利便性を向上させた。

### (7) 健康管理

ア 定期健康診断を実施するとともに、学生の負傷、疾病発生時には学生総合保険により学生支払負担を軽減するなど、総合的に学生の健康管理を行っている。また、学科によっては実習前に各種血液検査を実施している。

イ 衛生委員を主体に学校挙げて学生の健康管理を行っている、特に、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、次の措置を行っている。

(7) ウイルス感染拡大に伴う学校の対応・措置事項について具体化するとともに、学生及び保護者の方に周知した。

#### (i) 感染予防対策

a 全学生及び教職員を対象とした感染予防・対策マニュアルを作成、配布するとともに、これに基づく教育を実施した。

#### b 感染予防措置

(a) マスクの着用、3密防止、施設・設備・備品類の日々の消毒、手洗い励行など、感染予防の措置を徹底した。

(b) 体調管理表に基づき、学生及び教職員の日々の体調を把握し、必要により自宅待機等の措置をとり、感染防止を図った。

### (8) 課外活動

公認サークルに対しては助成金を支出し、円滑に活動が行えるよう、顧問の指導を含め学校全体で支援を行っている。

### (9) 卒業後のフォロー

卒業生に対しては、卒業教育として定期的に勉強会や研修会を開催し知識と技術の向上に役立っている。特に、国家試験不合格の卒業生等に関しては、聴講生制度を設け、次年度の国家試験受験のための態勢を整えている。

## 4 教育環境

### (1) 学外実習

実習指導者と年に1回臨床実習指導者会議を実施しており、学生が実習を行うために事前に教員が各施設間と協議し、実習施設と連携を図ることで学生が実習を行いやすい環境を整えている。

### (2) 危機管理（防災対策など）

#### ア 学校危機管理マニュアルの整備

危機管理事態の発生に際し学生・職員の安全・安心を確保するための措置事項等を取り纏めた「学校危機管理マニュアル」を整備している。

#### イ 訓練・点検

耐震設備、消防設備などの防災施設は整備されており、定期的に検査、修繕を行っている。また、防災訓練・退避訓練など、緊急時に備えた準備も実施できている。

## 5 学生の募集と受け入れ

### (1) 学生募集活動

学校案内パンフレット及びホームページの作成、高校訪問、進学ガイダンスへの参加、オープンキャンパス等により、適正に実施されている。これらの活動においては、学校の就職実績や求人状況、国家試験合格率等が活用されており、学生募集への貢献度は高く評価できる。

### (2) 入 試

#### ア 入試担当職員を配置し、出願から選考に至るまで入試区分に応じ適正に実施している。

#### イ 選 考

入学試験実施規定及び年度試験実施計画等に基づき入試委員会により適切に行っている。

#### ウ 入学手続

募集要項のほか、入試手続要項を合格者に発送し、手続完了期間までに手続完了できるよう適正に実施している。

なお、入学辞退者については、入学金を除く納付金の返還も確実に行っている。

#### エ 入学時納入金

(ア) 学費以外に必要な経費は学生募集要項及び入学の手引に明記している。

(イ) 経済的理由で進学を断念することのないよう分納・延納制度を設けている。

(ウ) 高等教育修学支援制度の予約採用申込を行っている入学予定者については、別に納期を定めるとともに、納入額を授業料等の減免後の金額とし、制度の趣旨を反映している。

## 6 財 務

### (1) 全 般

学校運営に伴う収支状況は安定しているものの、今後は将来的な少子化傾向とコスト削減等、社会情勢に合わせ検討していく必要がある。

### (2) 収 支

予算・収支計画は実績及び年度の特性に基づいて計画している。引き続き、中長期的な構想に年度予算・収支計画を関連付け、予算と執行の吻合及び更なる経費の節約に努めていく。

### (3) 会計監査

私立学校法及び寄附行為に基づき、学校法人全体を単位として実施されており、その監査結果については理事会及び評議員会の承認を受けている。

## 7 法令等の遵守

### (1) 法令・規則等に基づく学校運営

学校教育法、専修学校設置基準、理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法、柔道整復師法並びにあん摩マッサージ指圧師・はり師、きゅう師等に関する法律（法律第217条）、学校法人の寄附行為、学則等諸規定に基づき運営している。

### (2) 監査・調査

#### ア 私立学校運営状況調査の受検

昨年度受検し、学校運営及び学生教育等が適正に実施されている旨の所見を頂いた。  
なお、是正を要する事項として指摘を受けた事項については、速やかに是正した。

#### イ 各種報告

「自主点検結果」、「指定学校養成施設等の定期報告」及び「年度授業実施状況確認表」を定められた様式・方式により県に報告し、それぞれ適正に実施されていることの確認を受けている。

### (3) 個人情報保護対策

個人情報保護法を遵守し、個人情報の漏洩防止など全教職員・学生に周知徹底している。  
また、総括担当者以下によるサーバー管理及び個人によるデータ管理・ウイルス対策を行うとともに、書類などを倉庫、耐火金庫に区分けして厳重に施錠保管している。

### (4) 学校評価

#### ア 自己評価

昨年度より教職員会議において自己点検・自己評価の結果及び改善施策等について検討の上、逐次、改善を図っている。

なお、自己評価の結果については、「自己評価報告書」として取り纏めている。

#### イ 学校関係者評価

学校後援会代議員などの学校関係者により評価して頂き、評価結果について逐次、学校運営に反映している。

#### ウ 第三者評価

本年度、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科が、教育評価機構による第三者評価を受け、教育科目、成績評価、教員、施設・設備等など、学校運営が適正に行われているとの評価を頂いた。

なお、この際、頂いたカリキュラムポリシーの確立等の指導事項については、是正を行っているところである。

## 8 情報公開

### (1) 全般

学校の運営状況、学生教育、募集等に関する情報について、ホームページ及び各種印刷物により公開するとともに、希望者がある場合は、その都度、文書閲覧等の対応をとっている。

### (2) ホームページでの公開

#### ア 教育関連

①3つのポリシー ②授業計画（シラバス） ③国家試験実績

#### イ 募集：募集要項

#### ウ 学校評価

①自己評価（自己点検結果、学生アンケート結果、自己評価報告書）

②学校関係者評価（学校関係者アンケート結果、学校関係者評価報告書）

#### エ 財務状況

- ①財産目録 ②貸借対照表 ③資金収支計算書 ④事業活動収支計算書  
⑤活動区分資金収支計算書 ⑥監査報告書 ⑦事業報告書

### (3) 印刷物

学生便覧（学則、履修規程、その他の規則など）、授業計画（シラバス）など

## 9 社会貢献

### (1) 学園祭

地域住民との交流として、第一工業大学および第一幼児教育短期大学と合同で学園祭を開催している。

### (2) 地域活動

#### ア 施設の地域開放

(ア) 言語聴覚学科による「ことばの教室」、柔道整復学科による「付属整骨院」及びはり・きゅう学科による「付属鍼灸院」を定期に開設し、地域住民に対し専門の医療・リハビリテーションを提供するとともに、学生の実習に役立たせて頂いている。

(イ) その他の学校施設の開放も行われており、協会主催の研修会や勉強会、理事会の会場としても活用して頂いている。

#### イ 福祉等活動

霧島市の社会福祉協議会と提携し介護予防講座を随時開催するとともに、地域の福祉・健康関連イベントに積極的に参加している。

また、地域の中学校・高等学校等に対する出前授業などを積極的に行っている。

### (3) ボランティア活動

学生のボランティア活動については、学生のスキルアップにとっては良い機会であるとの認識より、ボランティアサークルを中心に積極的な参加を促している。活動状況の報告は、随時学校ホームページにて更新している。

## 10 各学科の教育活動

### (1) 理学療法学科

#### ア カリキュラム

(ア) 臨床現場で実践できる知識・技術・人間性の修得を目標とした実践教育に重点を置き、1年次から計画的に技術・能力を向上できるカリキュラムになっている。

また、「ふりかえり力向上手帳」を利用し、目標達成に向けての計画・実行を行うことで、学生の状況を把握し自宅学習を習慣化できるようサポートを行っている。

(イ) 職員・学生の社会貢献活動として、一般・障がい者の地域スポーツイベントや高校等の部活動などにおけるメディカルチェック、介護予防講座などの出張講座などに可能な限り学生も一緒に参加させることで専門職の職業観の育成につなげている。

(ウ) 卒業生による講話を定期的に行い専門職の育成につなげ学習意欲向上を図っている。

#### イ 授業評価（成績評価・単位認定についてを含む）

学生アンケートから全体的に高い評価を得ていることを確認している。特に、ふりかえり力向上手帳による教員とのコミュニケーションが成果に表れている。

#### ウ 教員

臨床経験を積み専門性を備えた教員を確保するとともに、学生の求めるもの、理学療法士に対するニーズの変化に柔軟に対応できるよう、学術大会・研修会や社会貢献活動を通して教員の質の向上に取り組んでいる。

## エ 国家試験対策

対策委員を置き、1年次から3年を通して国家試験対策を体系的に行っている。

## (2) 作業療法学科

### ア カリキュラム

(ア) 柔軟性と強い信念をもち、対象者のために第一に考えられる人材の育成を教育目標・人材育成像として、世界作業療法士連盟認定校の基準をクリアしたカリキュラムにより教育を行っている。

また、医療現場で学ぶ臨床評価学、実際に障がいのある方を対象とした評価方法の体験など、実体験を通じたカリキュラムを多く取り入れている。

(イ) 認知症予防教室への教員派遣や地域貢献活動への学生参加を行っている。

### イ 授業評価

(ア) 学生アンケートの「授業の予習や復習を自宅で行っている。」との設問に対し、「あてはまらない」及び「あまりあてはまらない」との回答が散見されるため、確実に予習・復習を実施させるための方策を検討していく。

(イ) より公平かつ正確な成績評価のため、テストの採点基準の明確化、実技試験での統一したルーブリック評価の導入を進めていく。

### ウ 教員

(ア) 教員採用

身体障害、精神障害、高齢、小児など幅広い分野で活躍できる人材の確保に努めている。

(イ) 教員育成

専門分野の追求に加え、他分野の知識の修得に努め学生本位の指導が行える人材育成を目指している。

なお、本年度は教員の退職や育休等の教員がいたため、教員同士の連携や役割分担について考え直し、学生第一の教員体制の再構築する機会となった。

### エ 成績評価

基礎から実践までの知識・技術とともに、人間性や社会性を含め判定を行っている。

なお、成績不振者には、原因分析を行い学習の定着を図る等、個別に対応している。

### オ 国家試験対策

1年次から、グループ活動などを通して解剖学、運動学などの専門基礎科目を、2年次には、専門基礎分野に加え専門分野の習得を図っている。3年次では、グループ学習により理解を深めつつレベルアップを図るとともに、模擬試験を定期的実施している。

なお、下位学生については、課外に補修などを行い個別に対応している。

## (3) 言語聴覚学科

### ア 教育目標、人材育成像

国家試験に合格できるだけの知識及び臨床現場で活躍できる臨床力を修得させるとともに、患者様やその家族の気持ちに寄り添うことのできる豊かな人間性を持った謙虚で教育水準の高い人材の育成を目標に教育を行っている。

### イ カリキュラム

(ア) 国家資格の取得のみならず、卒業後、医療の現場で通用する人材の育成を視野に入れカリキュラムを構築し、1年次から幼稚園実習や障害児者に直接関わる事が出来る学内臨床や臨床指導を通して実践教育を進めている。

(イ) 学生の社会貢献の場としては、学内での言葉の相談や小児臨床、各種施設へのボランティア派遣などを行っている。

(ウ) 卒後研修の一環として症例検討会を実施、臨床技術の向上や新しい情報の共有化など

を行っている。

#### ウ 授業評価

学生対象の授業評価により各教科の問題点を把握している。

本年度の授業評価において、保護者との連携の項目が昨年度に続き低評価であったため、保護者説明会の実施や成績不良者に対しての三者面談等について、多数の保護者が参加できる日程を設定するとともに、内容を充実させていく。

#### エ 教員

豊富な臨床経験を有し現場での知識を教育できる人材を確保するとともに、専門性を生かした授業ができるよう研修に参加するなど研鑽を積んでいる。

また、部外病院等での臨床研修や成人コミュニケーション障害者に対する臨床も行い時代のニーズに応じた知識・技術の修得に努めている。

#### オ 成績評価・単位認定

(7) 定期試験の結果に基づき成績評価を行っている。

再試験不合格者には、三者面談などにより修学意欲の確認を行いつつ、1科目15コマの課題学習などにより、再々試験での単位認定を行っている。

(4) 臨床実習不合格者に対しては、必要な指導を行って上で再実習により評価している。

(9) 単位認定

大学において基礎科目と同等の単位を取得している者には、申請により1年時の基礎科目に限り単位を認定している。

#### カ 国家試験対策

(7) 非常勤講師も含め、国家試験に関連するテキストや過去問を授業に一部取り入れるとともに、グループ学習や個別学習などの国家試験対策を継続している。

(4) 1年次から国家試験対策ノートの活用しつつ、学習方法を身に付けさせ、2年次にはグループによる調べ学習を行っている。3年次では、4月から科目別試験やグループ学習などにより全体のレベルを向上させ、10月からの模擬試験などにより国家試験の合格水準に達するよう指導を行っている。

### (4) 柔道整復学科

#### ア カリキュラム

(7) 総合的な人間力の向上を目標とし、3年間の学生生活を通じて、技術と知識、そして社会人・医療人として必要なマナーを備えた人材育成を目標として、カリキュラムを組んでいる。

また、国家試験対策を1年次より始め、学生の能力に応じた取り組みを行っている

(4) カリキュラム改正の2年度目として、多様化したカリキュラムに対応した。

#### イ 国家試験対策

昨年度より問題数が増加し出題範囲が変更されたほか、近年、国家試験合格率の全国平均が下降傾向にあるため、年度ごとの教育到達レベルの見直しを行うとともに、科目ごとに教育内容の充実・改善を図っている。

#### ウ 授業評価

学生による授業評価を実施し、授業の改善点を把握、教育の質の向上を図っている。

#### エ 教員

指導能力、臨床的な専門性を有する教員の確保に努めるとともに、教員を臨床研修や臨床セミナー等に参加させ、臨床能力はじめ、教員の質の向上に取り組んでいる。

#### オ 成績評価、単位認定

透明性のある公平な評価を旨とし、定期試験後には問題と解答用紙を返却させた上で、

自己確認を実施するとともに、評価・認定基準の簡略化に努めている。

## (5) はり・きゅう学科

### ア カリキュラム

(ア) 現代社会が求める医療従事者としての知識・技術の習得、並びに豊かな人間性の構築を目標に、学生の能力や個性を尊重し、教員と学生が共に学ぶ“共育”を念頭に置き、学科全体で教育に当たっている。

(イ) 本年度から、実習時間を増加し、より基礎力・応用力・実践力の修得を重視した新カリキュラムに移行した。特に、2年次より附属鍼灸院での臨床実習を行い、講義で修得した知識・技術を活用するとともに、実習で得られた経験を学習にフィードバックできるよう指導を行っている。

### イ 国家試験対策

試験対策を早期から行っている。特に3年次には集中して国家試験受験指導を行い、国家試験全員合格を目指している。

### ウ 授業評価

学生対象の授業アンケート及び他学科教員に向けて公開授業を実施し、講義内容や指導方法等の改善に繋げている。

### エ 教員

(ア) 治療技術における専門性と学生教育における積極性とを兼ね備えた教員を確保しており、外部講師との連携しつつ学生の教育に当たっている。

また、臨床研修や講習会・学術大会等への参加を通して、教員の質を高め学生に還元するよう努めている。

(イ) 本年度施行の認定規則の改正に伴い、専任教員6名体制を確保した。

### オ 成績評価

(ア) 当該学年で修得すべき知識・技術が十分に備わっているか、単位認定は他校・本校他学科において受けた教育科目の内容レベルが国家試験合格に達するものか、それぞれ検討した上で公平に評価・認定をしている。

(イ) 資格取得の指導として成績不振者に対し、随時個別面談や保護者面談を行い、本人の意見も尊重し、目標到達できるようにサポートしている。

## 11 各学科の教育成果

### (1) 理学療法学科

#### ア 教育および学生生活

担任制の下、各クラス全体を指導・監督するとともに、個々の学生に対してグループ毎の担当教員により必要な面談を行っている。

特に、グループ担当教員は、ふりかえり力向上手帳や自己発見検査・スクールライフアンケートの内容を参考に生活指導や学習方法の指導を行い、自宅学習の習慣化に取り組んでいる。

また、学生・保護者のとの三者間で意思疎通を図りながら、学力不振などの理由による退学率の低減に努めている。

#### イ 資格取得

令和元年度国家試験の合格率は100%であり、全国平均93.2%を上回る成果を得た。

#### ウ 就職

教員と医療機関（特に臨床実習施設）との関係を強固にし、資格取得者全員が正規職員として就職できた。

エ その他

卒業生については、日本理学療法学会、九州理学療法士・作業療法士合同学会などでの演題発表や、大学院進学など様々な活躍が見られ、随時ホームページで紹介するとともに、卒業生の講話を通して在校生の修学意欲の向上にも繋げていく。

(2) 作業療法学科

ア 教育及び学生生活

(ア) 教育

本年度リハビリテーション教育機構評価認定の審査を受け、良い評価を受けた。引き続き、世界作業療法士連盟認定校が継続できるようにシラバス等の整備を進めている。

(イ) 学生生活

学年ごとの担任・副担任制により学生の指導・監督、サポートを行っている。特に、退学者、留年者を減らす取り組みとして、入学当初より医療人としての心構や社会性が身に付けられるようフォローを行っている。

ただし、本年度は退学者4名を出し、精神的なサポートが足りないと分析している。このため、今後は、学生手帳によりコミュニケーション機会を増やすなど、保護者、学生及び教員との間の意思疎通を向上し、退学者、留年者の軽減に努めていく。

イ 資格取得

本年度の国家試験合格率は100%で全国平均87.3%を上回る成果を得た。1年次からの基礎学力向上の取り組みが結果に繋がったものと分析するが、引き続き、危機感を持って資格取得率向上に向けた取り組みを行っていく。

ウ 就職

本年度の資格取得者については、正規職員として100%の就職となった。

エ その他

卒業生については、県士会活動や学会等発表などを通して、地域の啓蒙活動や専門性の向上に取り組むとともに、実習指導者として後輩の育成に大きく貢献している。今後も学生生活の支援及び資格取得、ひいては卒業後のサポートも行えるよう教員一同学科運営に鋭意努力していきたい。

(3) 言語聴覚学科

ア 教育及び学校生活

(ア) 担任・副担任制の下、学習面・生活面の相談・指導態勢を確立するとともに、入学時・進級時に二者面談を行い学生の状態を把握、教員間で情報共有しつつ指導を行った。

週ごと在宅学習ノートの提出を義務付け修学状況を把握するとともに、コメントを記入し学生が相談し易い環境を築いている。

(イ) 成績不振者に対しては、適宜、二者面談、三者面談を行うとともに、奨学金事務と連携しつつ、経済的な相談・支援を行い成績の向上、生活面の安定に努めているが、本年度、退学者2名、成績不振による留年者2名が発生した。

(ウ) 資格取得

本年度国家試験の合格率については、全国平均65.4%に対し75.0%であった。模擬試験で点数が取れているにもかかわらず点数の伸びていない者、自己採点では合格だったものが不合格となった者がおり、これらの者については、聴講生として引き続きフォローしていく。

なお、聴講生でアルバイトが必要な者には、医療に関わる仕事の斡旋を行った。

イ 就職

卒業試験合格者には早期に就職確定できるよう指導し、数名の学生に対し就職面談の練

習を行った。就職率に関しては、国家試験合格者は全員就職する事が出来た。

ウ その他

卒業生は臨床を通して、また、日本言語聴覚学会での発表や鹿児島県言語聴覚士会での研修会などを通して社会貢献を行っている。

在校生は、学内臨床での障害児者支援、ボランティア参加などを通し社会貢献している

#### (4) 柔道整復学科

ア 教育及び学校生活

(ア) 3年間の修業期間において成功や挫折を繰り返すことが、素晴らしい経験となり、人間力を育む基礎となるため、学生生活に挫折そうになった時に学生に寄り添ってサポートすることが重要と考えており、学年ごとの担任制の下、教育、学生生活両面のサポーターとして学生支援を行っている。

(イ) その成果として現在まで約85%の卒業率を維持している。特に、退学者、留年者をなくす取組として、「学業、人間関係、健康面など多岐にわたる悩みや不安を想定し、保護者、学生及び教員が三位一体となって指導にあたっている。

イ 資格取得

国家試験合格率は11年連続90%以上を維持している。特に、平成25年度からは7年連続合格率100%を達成しており、全国柔道整復師養成学校120校中、本学科のみが達成している成果となっている。

ウ 就職

免許取得後の就職率も100%を維持した。

卒業試験合格と同時に就職活動を開始し、学生が主体的に選択できるように実施した結果、資格取得者の正規職員としての就職率は100%を維持した。

また、現在まで卒業生の独立開業者は50名以上に達し、学科として行っているトレーナー活動や介護予防講座にも協力して頂いている。

エ その他、

教育成果について、数字のみならず、全ての学生3年間の修学期間を全うし、学生生活が有意義かつ有益であるよう、常に教員一同努めていく。

#### (5) はり・きゅう学科

ア 教育及び学生生活

(ア) 担任制の下、個別面談を適宜実施し生活面・学習面への指導を行っているが、本年度は2名の退学者を出している。学業意欲喪失と進路変更が理由であるが、早くから悩みに対処できれば退学を防げた可能性もあり、今後は教員全員で学生との接触機会を増やしながらか、継続的な身上（心情）把握と早期の対応により退学率の低減に努めていく。

(イ) 成績不振者には個別面談に加え三者面談や学科長同席での指導を行い、保護者とともに学生をサポートし学力向上を目指しているが、本年度は体調を崩す学生が多く、更に、学科全体で学生の健康管理について、教員間の情報共有及び保護者との連携を図っていく。

イ 資格取得

(ア) 本年度は、2回の学外模試に加え、国家試験レベルに応じた学科独自の模擬試験を実施により、レベルに応じた個別の学習指導を行うとともに、卒業生による講演により資格取得に向けた意識付けを行った。

(イ) 本年度国家試験の合格率については、全国平均（はり師73.6%、きゅう師74.3%）に対し、既卒者1名を含めはり師・きゅう師とも100%の合格率を達成した。

なお、来年度の国家試験については、出題数に変更されるとともに、より難題となると予想されるため、国家試験対策とともに平素の教育及び学生指導を充実させていく。

#### ウ 就 職

早期からの職場見学や業界の就職セミナーへの参加を通して、本学科学生に対する求人数、特に県内の求人数が増加した。これにより、資格を取得した卒業生の殆どは希望の就職先に就職できた。

ただし、1名の卒業生が新型コロナウイルスのため内定が保留となった。また開業を希望する学生及び卒業生、卒業生の再就職についても積極的にサポートしている。

#### エ その他

卒業生については、一人ひとりが臨床現場で患者様と向き合い、公共の福祉に貢献しており、今後も社会に求められる鍼灸師をより多く輩出できるように努力していく。